



話題の蝶 アカボシゴマダラ

宮原 吉郎

新緑が美しく映える季節になりました。みずき野町内でも、アゲハチョウ、アオスジアゲハ、モンシロチョウなど、とび回る蝶の種類が次第に増えてきています。そのなかに、昨年ごろから見慣れない大型の白っぽい蝶が混じっているのにお気づきでしょうか？

それが、今回ご紹介する「アカボシゴマダラ」という名前の蝶です。ここ20年前に突然現れ、その後、関東一円に分布を拡げているのですが、実はこの蝶、以前は奄美大島だけに棲息が知られていました。たまたま台風などに乗っかって関東に飛んできたもの(迷蝶と呼ばれます)が棲みついたのかと思われたましたが、採集された個体を専門家が詳細に調べた結果、奄美大島産起源ではなく中国産起源ということが判明しました。さすがに中国から飛んで来たとは考えにくく、中国産のアカボシゴマダラを、何者かが人為的に放したものが繁殖したという説が有力です。(注1)

注1. 1995年以降、埼玉県、神奈川県内で目撃され、その後、急速に数を増やすとともに、分布範囲を拡大し、2011年頃から茨城県内でも発生が確認されました。みずき野周辺では2014年から発生が顕著になってきています。

蝶自身には何の罪もないのですが、人騒がせなことです。この蝶は農作物を荒らしたり、人に危害を加えたりはしませんが、自然生態系に何らかの影響を与える可能性もあり、このような行為は慎むべきです。

ともあれ、みずき野周辺には食草のエノキが至る所に見られますので、生育には適した環境と思われます。春から秋にかけて何度か発生サイクル(卵→幼虫→蛹→成虫)を繰り返し、晩秋になると幼虫は木から降りて枯葉の下などで越冬します。エノキが芽吹く4月に目覚めて葉を食べ5月上旬に蛹になります。

私も5月に入ってから近所を探してみたところ、エノキの幼木に丸々と太った幼虫や蛹を簡単に見つけることができました。写真でわかる通り、蛹は、見事にエノキの葉の形に似せています。



枝や葉に逆さまにぶら下がる形の蛹；触ると激しく暴れる

この蝶の面白いところは羽の模様と飛び方です。5月ごろに見られる個体は白地に黒のスジ模様ですが、夏以降に見られる個体には後ろ羽に目立つ赤い斑点模様があります(これが名前の由来)。

飛び方は、アゲハチョウなどに比べるとふわりふわりと優雅です。分類学的に近い種のゴマダラチョウやオオムラサキが力強く羽ばたき、滑空飛行を得意とするのとはずいぶん印象が違います。

実は、これらの性質は生き延びるうえでの戦略なんです。成虫の蝶の最大の天敵は鳥ですが、マダラチョウの仲間(アサギマダラなど)は体内に毒を持つことにより、鳥が学習してこれらのチョウだけは食べたがりません。そこからは進化の不思議で、マダラチョウと同じ場所に生息するチョウは長い進化の過程で次第にマダラチョウに姿や動作が似てくることで生存確率を高めています。これを「擬態」と言います。

斑点を持つこの蝶が飛んでいる姿を実際に見ましたが、遠目に見ると、模様の赤と黒い部分が絶妙に混ざって赤茶色に見え、前翅の薄い青と飛び方まで含めて見事にアサギマダラに見えました。一方、赤い斑点を持たない個体はというと、全体的に大型である点も含めて、オオゴマダラ(沖縄に棲息するマダラチョウの1種)に擬態しているのではないかと思います。みずき野近辺の鳥が、これらマダラチョウを知っているかどうかは定かでないので、有効なのか少々疑問ですが。



羽化したばかりの赤い斑紋のない個体(春型)



赤い斑紋を持つ個体(夏型); 春型に混ざって羽化してきた



オオゴマダラ(沖縄県産)



アサギマダラ(長野県産)